

第53号 2008.2.4
高知県立幡多けんみん病院発行
〒788-0785
宿毛市山奈町芳奈3番地1
TEL (0880)66-2222(代)
http://www.pref.kochi.jp/~hata

病院ニュース

News Letter

救急室を改修しました

経営企画課

当院は、救急病院として二十四時間患者さんを受け入れる体制を確保しています。救急患者さんは毎年増加傾向にあり、平成十九年度における救急車搬送の一ヶ月平均件数は、二百五十五件（十二月までの実績により算出）で、前年度に比べ約二十％増の件数となっております。

救急患者さんが来院された際は、二階にある救急室で診療を行っています。救急室には、診察室、処置室、各種医療機器等救急医療に必要な設備を整えています。患者さん増加の影響を受け、ピーク時は、救急室が患者さん、医療スタッフでいっぱいになる時もありました。



このたび、救急医療を必要とする全ての患者さんにこれまでと変わらず迅速でスムーズな対応を行うため、救急室の拡張、改修工事を行いました。

まず、処置室を増室しました。処置スペースを拡張したことで、より円滑な対応ができるようになります。また、心肺停止で運ばれた患者さんや、大きな外傷があり出血多量の患者さんなど、超重症の方と他の患者さんのスペースを区切ることで、集中して各々に必要な処置を行うことができるようになります。

次に、救急車搬入口を整備し、救急車寄せの上に屋根を付け、雨天の際患者さんや救急隊の方が濡れることのないようにしました。

改修後の救急室を見に行った際、救急救命士の資格を取るため当院で実習を行っている救急隊の方とお会いし、お話を伺うことができました。

日頃から、救急車で患者さんを当院まで搬送して下さっている方で、今回の改修工事について感想を尋ねると、「屋根ができたことで、患者さんの搬入が

楽になると思います。また、処置スペースが拡張されたことで、より円滑な対応が期待できると安心しています。」と、好評でした。

最後に、同じ方に当院の救急医療体制についてご意見を求めたところ、「いつも救急患者さんを快く受け入れてもらい、救急隊として非常に心強い存在です。けんみん病院の医療スタッフの方も、協力的で色々なアドバイスなども受けています。」と、有り難い声をいただき嬉しくなりましたと同時に、そのご意見を聞いて、患者さんが発症、受傷した時点から、その人への救急医療は始まっているということを確認させられました。

これからも、患者さんはもちろん、医療スタッフの他、救急隊の方など、救急医療に関わる全ての方が安心して「けんみん病院」であり続けなければならぬと思います。



a p r o f e s s i o n

CC委員会

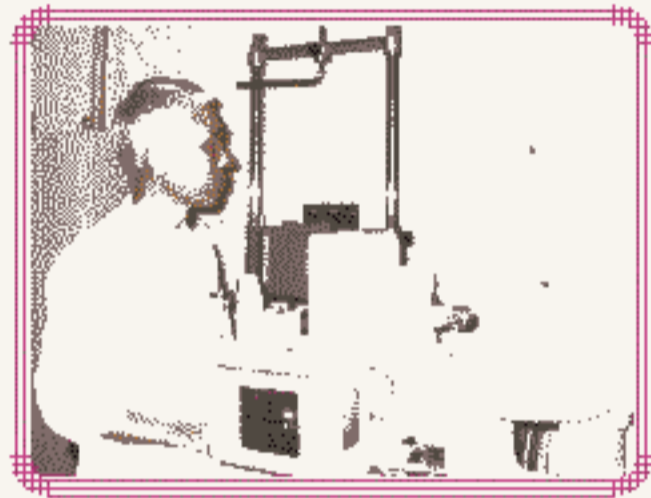
『a profession』。

日本語で『専門職』という意味です。病院は、各々の専門領域に特化したスタッフが集まり、患者さんの治療、ケアに取り組んでいます。病院で働く一人一人のスタッフを紹介させていたくことで、現在の「幡多けんみん病院」の姿を知ってもらえたらと思います。

第一回目は、放射線室技師長、森下時雄さんです。あらかじめ森下さんにお渡ししたアンケートの回答結果を、Q & A方式で紹介します。

A1. 放射線技師として、エックス線を使って身体のあるゆる部分を撮影し、画像診断の一翼を担っています。また、機器管理や、時間外の救急患者さんに対応するため、当直も担当しています。

A2. 子供の頃、撮ってもらったエックス線写真の不思議さと、写真技術に興味があり、技術系を選び、放射線技師を選択しました。



業務中の森下技師長です

A3. 放射線治療を担当していた頃、患者さんのとても強い痛みが毎日にとれて、毎日元気になっっていく様子を見させてもらったことが印象に残っています。

A4. 『心をもって、事にあたる』

A5. 「わかりやすい言葉」、「わかりやすい大きな声」で患者さんの撮影や検査にあたっています。今後ともご協力をお願いします。



ナイス☆スマイルです

エックス線写真の不思議さ…編集スタッフ幼少時には、その感性を持つことができませんでした…。やはり、職業選択の『縁』ってあるのでしょうか。

技師長である森下さんは、放射線技師としての日々の業務の他、放射線室全体の業務を管理する役目も務めています。

写真の通り、いつも穏やかで静かな笑顔の似合う方ですが、患者さんの「痛み」を知り、また、治療を行うことで元気になる喜びを患者さんと共有するという経験をされている森下技師長に、放射線技師としての強い心を感じました。

からだにやさしい食生活

栄養科



冬から春先にかけてが旬であり、鍋物には欠かせない白菜ですが、それ以外の使い方に困ってしまったという経験はないでしょうか。

白菜はくせがないので、他の食材と合わせやすく、炒める・煮込む・生で食べると調理法も選びません。また、主な栄養素はビタミンCです。豊富なビタミンCは体に抵抗力をつけ、風邪予防や疲労回復に役立ちます。

そこで今回は、生の白菜の甘みを発見できる1品を紹介いたします。

「白菜のホットサラダ」

☆材料☆(4人分)

白菜 1/6個(約300g)

豚こまぎれ肉 120g

ねぎ 1/4本

《調味料A》

練りからし 小さじ1弱

醤油 大きじ2

酢 大きじ2

酒 小さじ1

砂糖 小さじ1/3

塩 少々

◎醤油・酒・片栗粉・サラダ油

☆つくり方☆

①豚肉はざく切りにし、醤油・酒各大さじ1/2で下味をつけ、炒める前に片栗粉小さじ1/2をまぶす。ねぎはたて半分にきり、斜め薄切りにする。

②白菜は根元に包丁を入れて1枚ずつはがし、芯と葉に分ける。芯は長さを半分から3等分に切り、繊維に沿って薄切りにし、葉は細切りにする。

③フライパンにサラダ油大きじ1を熱し、①の豚肉を入れ、カリッとするまで炒める。ねぎを加えて炒め、混ぜ合わせた調味料Aを加え、煮立ったら火を止める。

④②の白菜を芯が上になるように盛り、③を熱いうちに汁ごとかける。よく混ぜて食べる。

【ポイント】

炒めた豚肉の余熱で白菜をしんなりとさせるので、白菜は細く切っておくとよいです。アツアツのドレッシングであえるので白菜がたっぷり食べられますよ。



LUNCH★BOX

今月は、薬剤師として働くスタッフのお弁当を紹介します。

『愛妻弁当を毎日持参しているらしい・・・』との情報をキャッチした編集スタッフ。若干緊張しながら撮影のお願いに伺ったところ、照れながらも快諾してもらい、お弁当の撮影ができました。

昨年結婚されたばかりで、お弁当は奥様が作ってくれるそうです。共働きのため毎日二人分作っていらっしゃる聞きまし。お弁当に限らず、料理をす

るのは奥様で、食器を洗い、片付けるのはご主人の役目になっているとのことでした。きっと、お互いを思いやる気持ちがある、そういった自然な役割分担につながっているのでしょうか。

鮮やかな黄色の卵焼き。隣には、よく味が染み込んでいるだるうきんぴらごぼう、真っ白なポテトサラダ。ごはんの真ん中には、大きな梅干し。お弁当は、野菜中心のヘルシーなメニューで、食欲をそそられます。(自分が食べられるわけでもないのに...)。

「三人分作ってくれないかなあ」なんて、図々しい願望が思わず頭をよぎってしまいました...



年賀状

編集スタッフ

お正月といえば、「お年玉」「御節料理」「お雑煮」「初詣」などと色々と連想することがあります。それぞれの由来やそれになまつわる習慣をみなさんご存知だと思えます。その中で、意外と知られていないのが、「年賀状」についてではないでしょうか。

年賀状の起源は、もともと奈良時代にまで遡るといふ説があります。奈良時代に、お世話になった方々、君主、師匠、父母、親戚、近所の方々に年始の挨拶をして回るといふ風習がありました。それが平安時代には公家社会に広まったといわれています。その中で、遠方でなかなか出向いていけない方々に挨拶を書状で交わしたというのが年賀

病院の理念

1. 幡多けんみん病院は幡多地域における医療の中核となる病院として、地域の他の医療機関や保健・福祉・介護施設などとの連携のもとに、地域で完結できる、良質な医療の提供を目指します。
2. 地方公営企業として、地域医療をとおして地域の福祉の増進を目指しながら、企業としての経済性を発揮する運営をおこないます。

私たちの目指す医療（基本方針）

1. 正確で間違いのない医療
2. 十分に説明をする医療
3. 透明性を大切にする医療
4. 患者さんの希望を大切にする医療

江戸時代になると裕福な武士や商人の間で、飛脚を利用した年賀状の挨拶が行われるようになりました。広く一般庶民に浸透したのは、明治六年に明治政府が郵便葉書を販売したのがきっかけです。本来は、元旦に書いて投函するものでしたが、明治三十一年に一部の郵便局で年内の一定期間に出した年賀状が一月一日の消印で配達される「年賀郵便特取扱」が開始され、現在のように年内に投函して元旦に届くのが主流になりました。毎年、年末ぎりぎりになってから大慌てで年賀状を書くものとして、そもそも元旦に書いて投函するものであるなら安心といったところでは

ありません。平安時代の学者、藤原明衡が著した「雲州消息」という手紙の模範文集に年始のあいさつ状の文例があり、これが現存する最古の年賀状といわれています。



遠方ではなかなか会う機会がなく、一年に一度年賀状でお互いの近況を連絡しあう、そんな方がいるのではないのでしょうか。最近では、メールやパソコンで作成した年賀状が多いですが、遠くにいて、なかなか会えない人を思い出しながら年賀状を書く、受け取った方もその文字や行間に相手の心を思う。一年に一度くらいそんな時間があった方がいいのではないのでしょうか。

遠くても近くても、誰かのことを思い浮かべながら書くということは、それが短い文章であれ、そこにはたくさんの想いがつまっています。書く方も読む方もちよっぴり素敵な時間が過ごせるような気がします。たまには、大切な誰かに手紙を書いてみるのもいいのではないのでしょうか。



12月の統計

外来患者数	14,718人
新外来患者数	2,225人
紹介患者数	350人
新入院患者数	461人
退院患者数	522人
平均在院日数	15日
救急車・時間外患者数	1,841人
手術件数	171件

幡多けんみん病院における患者さんの権利

1. 患者さんは、良質な医療を平等に受ける権利をもっている。
2. 患者さんは、医療を受けるにあたり、十分な説明を受ける権利をもっている。
3. 患者さんは、プライバシーが守られることを期待する権利をもっている。
4. 患者さんは、自分の希望を伝え、医療に参加する権利をもっている。
5. 患者さんは、人間としての尊厳が守られることを期待する権利をもっている。